病院図書室研究会における患者図書サービス —「患者医療図書サービスマニュアル」の作成経緯と今後の取組み

吉富まち子¹⁾ 有田由美子²⁾ 大沼由紀子³⁾ 篠原寿美江⁴⁾

¹⁾ 竹田綜合病院 ²⁾ 新潟県立がんセンター新潟病院 ³⁾ (株)日立製作所日立総合病院 ⁴⁾ 川崎市立川崎病院

I. はじめに

新聞や雑誌に医療に関する多くの記事が掲載されるようになった今日、患者医療図書サービスが急速な広がりを見せている。その背景には、患者中心の医療、インフォームド・コンセント、患者の知る権利、治療法を選択できる自己決定権など、患者の基本的な人権を尊重した医療への変化が大きな要因と考えられる。また、患者自身の医療に対する関心の高まりも大きい。さらに、日本医療機能評価機構の特記事項がサービスの開設に拍車をかけている。このような医療社会の変化は、従来からの病院図書室業務にも波及し、これまでの職員を対象とした医学・医療情報のサービスから患者・家族・一般住民をも視野に入れたサービスの提供が求められるようになった。

著者等は、病院図書室研究会（以下 病図研）の中に、図書室担当者として患者への医療情報サービスのかかわり方を調査研究し、病図研としてのサービスの基準作成に繋げるための研究グループを平成 13 年に立ち上げた。

II. 研究グループの歩み

研究グループは、病図研会員病院を対象に患者図書サービス（一般書・医療図書を含む）の実態のアンケート調査を行った。調査期間は、平成 13 年度と平成 14 年度の 2 年間にわたって 2 回行った。

平成 13 年度の第 1 回調査研究では、「病院図書室担当者として患者に対する文献情報・図書サービスへのかかわり方」について会員を対象に実態調査を行った。調査の結果、医学専門書を提供している機関は 5 機関、健康に関する図書を提供している機関は 8 機関であった。図書室担当者がかかわっている患者医療図書サービスは少

ない状況であることがわかった。ただし、調査協力機関 90%が医療図書サービスの必要性を感じているという回答をした。必要と感じながらもどのようにかかわったらよいか、立ち上げ方法や運営へのかかわり方の基準となるマニュアルを必要と感じている会員が多くいることが調査結果でわかった。

平成 14 年度の第 2 回調査研究では、一回目の調査結果の中から患者医療情報サービスの開設、運営について問題となる事項を抽出し、それを基に 9 項目の設問を作成した。アンケート調査の対象は、実際に医療図書を提供している 16 機関（前年の調査後スタートした機関を含む）に行った。調査の結果、99%が担当者・ボランティアの教育・研修の必要性を挙げ、次いで選書、サポート体制、レファレンスなどが問題として挙げられているのがわかった。

これを受けて平成 15 年度、2 年間にわたる調査研究で得た問題点とこれまでの調査研究結果から得た実施者の声をもとに、患者医療図書サービスの開設と運営の手引書となる「患者医療図書サービスマニュアル」を作成することになった。

III. マニュアルの作成

マニュアルは、2 年間の調査研究の中で取り上げられた問題点と、執筆者等が開設・運営について自ら学びたい項目をまとめ、さらに実務の中で得た知識を加え検討した結果、以下の 7 つの章で構成をした。

第 1 章 患者医療図書サービスの意義と目的

患者の権利宣言、インフォームド・コンセントの流れ、サービスの意義と目的など患者への情報提供の必要性を解説。

第 2 章 患者医療図書サービスの開設

これから患者医療図書サービスを開設したい担当者のために、開設の動機、準備委員会発足などの解説。

第 3 章 施設と設備

¹⁾ Machiko YOSHITOMI : 〒965-8585 福島県会津若松市山鹿町 3-27.

Tel.0242-29-9932 Fax.0242-29-2726 Yositori@takeda.or.jp

²⁾ Yumiko ARITA, ³⁾ Yukiko OONUMA, ⁴⁾ Sumie SHINOHARA

(2004 年 9 月 14 日 受理)

開設する位置とスペース, 揃えるべき設備と備品。患者医療図書サービスの内容(医学専門書型, 医学専門書・娯楽図書混在型)と形態(独立型, 公開型, 巡回型, 開設型)の解説。

第4章 図書と資料

収集する資料の選書方針, 分類や配架など図書室の基本業務とインターネットサイトの紹介。

第5章 サービス

サービスの開始に際しての利用案内, 注意事項, レファレンス, 院内のサポート体制など, サービスを実施している図書室の各種参考資料の記載。

第6章 管理と運営

サービス運営委員会などの組織を機能させ, 継続的な予算の獲得, 広報活動, 資料の消毒・感染などの記載。

第7章 教育と研修

サービスにかかわるスタッフの教育と研修。基本的な医療情報の知識の習得法と患者への接遇の仕方。ボランティアの募集と研修, 患者と接する際の心得を記載。

付録 「参考図書リスト」

サービス実施機関16機関が所蔵する図書リストを基に, 発行年が2000年以降のもの。出版社は, 基本的に医学関連図書を出版しているところを基準に選書した437冊を記載。

以上, 各章共それぞれに詳しい説明と対応が記載され, さらに図面や写真を多く取り入れた。このようにして, 図書室担当者が初めて患者医療図書サービスにかかわる際のマニュアルとして平成16年3月に「デスクマニュアルシリーズ 患者医療図書サービス—医療情報を中心とした患者図書室」を発行した(図1)。

IV. 現在の取組み

病図研では, これまでの研究と患者医療図書サービスマニュアル作成の経験を基に, 平成16年5月「患者医療図書サービス支援事業委員会」を発足させた。活動内容は, 会員の中で初めて患者図書室に携わる担当者へのアドバイスを中心としている。

1. 患者図書室開設時の支援

病図研のホームページに患者医療図書サービス支援事業のサイトを設け, 会員のためのサービス開設時に生じる様々な問題・維持・運営等に関する疑問や不安などの質問にアドバイスをすること。

図1.

2. レファレンス事例集

利用者の求めた図書・資料など提供した事例を蓄積し, サービスの参考となるレファレンスの事例集を将来まとめること。

3. 参考図書リスト・参考サイトの紹介

新しい図書・資料の紹介と「参考図書リスト」の更新, インターネットサイトの最新の情報提供に努めること。

4. 患者医療図書サービス活動の啓蒙

診療において患者・家族への医療情報提供の重要性, 病院の中での患者図書室の必要性を病院管理者, 図書室担当者に啓蒙し, 図書室担当者がかかわることの大切さを広く普及させ, 院内外での広報活動を積極的に行うこと。

このような支援事業委員会の活動が, 会員の患者図書室の開設や維持・運営等の支えとなり, 患者医療図書サービスの成長の一翼を担い共に考え学びたいと思っている。

V. 今後の課題

患者・家族・一般住民の医療や健康に関する意識は益々高まり, 患者図書室に求められるものも多岐にわたり増えてくると思われる。サービスに携わる担当者は, 利用者の様々な質問に応えるために, 基礎的な医学の知識, 図書・資料の知識, さらに利用者との接遇・コミュニケーションなどを学び, 提供と共にサポート体制を整えることが必要である。患者医療図書サービス支援事業委員会では, これまでの経験を基にこのような研修や教育活動を行い, より良いサービスを目指し患者図書サービスの推進と定着を諮りたい。

最後に, 2005年5月病図研は創立30周年を迎える。30周年の記念大会に柳田邦男氏をお迎えし, 講演とシンポジウムを開催する予定である。患者が求める医療情報の提供, サービスのあり方など参加者と意見を共有できる大会になることを期待している。